



とも

こ

保護者の皆様へ

幼児にとって遊びは大切な学びです。
このリーフレットは、幼児教育における
遊びの重要性について保護者の方々と共有
することを目的に作成しました。

家庭や地域、幼稚園・保育所・認定こども園、小学校等がともに手をつなぎ、子供の健やかな成長を支えていきましょう。



幼児期に育みたいもの

幼児期は、遊びの中で頭も心も体もいっばいに動かして、身近な対象に自分から直接関わりながら、総合的に学んでいく時期です。つまり、遊びを通して育ち、学ぶ時期なのです。幼児は自ら選んだ遊びの中で自分なりに試し、感じ、気づき、満足感や充実感を味わいながら成長していきます。幼稚園・保育所・認定こども園（以下「園所」）では、幼稚園教育要領、保育所保育指針等に基づきながら、幼児期にふさわしい教育を大切にしています。



幼児教育で育みたい3つの資質・能力

は遊びの中で育ちます



保育者 幼児一人一人の思いや興味・関心に寄り添うことを大切にしています。

学びに向かう力、人間性等

よりよい生活を営もうとする



思わず遊びたくなる環境や友達との関わりが生まれるきっかけをつくる工夫をしています。



保育者

自発的な遊びを通して

知識及び技能の基礎

感じる 気付く
分かる やってみる

思考力、判断力、表現力等の基礎

考える 試す
工夫する 表現する



好きな遊びを楽しむ中で、自らものや人と関わり多くのことを学ぶ、幼児期にふさわしい生活を大切にしています。



幼児一人一人の動きや表情、言葉などから内面の理解を深め、幼児の主体性を大切にされた保育を行っています。

家庭で



子供と一緒に「ふしぎ」を楽しむ

子供の「なぜ?」「どうして?」の問いかけには、「なんでかなあ?」「どうしてだと思っ?」「一緒にやってみる?」などと反応して、まずは気持ちに寄り添うことが大切です。子供なりの「ふしぎ」を一緒に楽しみましょう。正解を答えたり、先回りの説明をしたりすると、子供の自ら考える楽しさを奪ってしまうことになります。



一人一人のよさを未来へつなぐ-学校教育のはじまりとしての幼稚園教育-

園所で



遊びは幼児期にふさわしい学び

幼児期は、遊びに夢中になる中で「もっとやりたい」「おもしろい!」「なぜ?どうして?」と、心を動かし、育つ時期です。遊びこむことで、育みたい3つの資質・能力が総合的に育つのです。子供主体の遊びは幼児期特有の学びであり、遊びの経験が小学校以降の学びの土台となるという捉えのもと、園所では、遊びを保育の中心に据えています。園所だからこそできる体験を大切に、子供の興味や育ちにに応じて環境を整え、一人一人のやりたい遊びが充実するように援助することを大切にしています。



幼小リーフレット「つなぐ」(山形県教育委員会HP)

園所と家庭で



「非認知能力」の重要性

やり抜く力
人と関わる力
感情をコントロールする力

最近の研究では、記憶力や推論する力などのIQで測れる「認知能力」だけでなく、「非認知能力」が、子供の将来にとって大事であることが明らかになっていきます。非認知能力の発達の鍵は、自発的な遊びや生活を通して、子供自ら身近な環境(もの、人、こと)との関わりを豊かにしていくことです。そして、周囲の大人は、「できた」「できなかった」の結果ではなく、挑戦する気持ちや粘り強さ、やるうとする意欲や過程を大いに認めていくことが大切です。例えば「面白いね」「素敵だね」「大好き」等のポジティブな言葉かけによる共感的な関わりによって、大人が子供にとっての心よりどころとなっていくことは、非認知能力を育む上でとても大切なことです。



令和3年度文部科学省委託「非認知能力に関する保育・幼児教育施設の意識や取り組みと園児への影響に関する調査研究」

小学校教育へのつながり

* 幼児教育と
小学校教育の
架け橋特別委員会

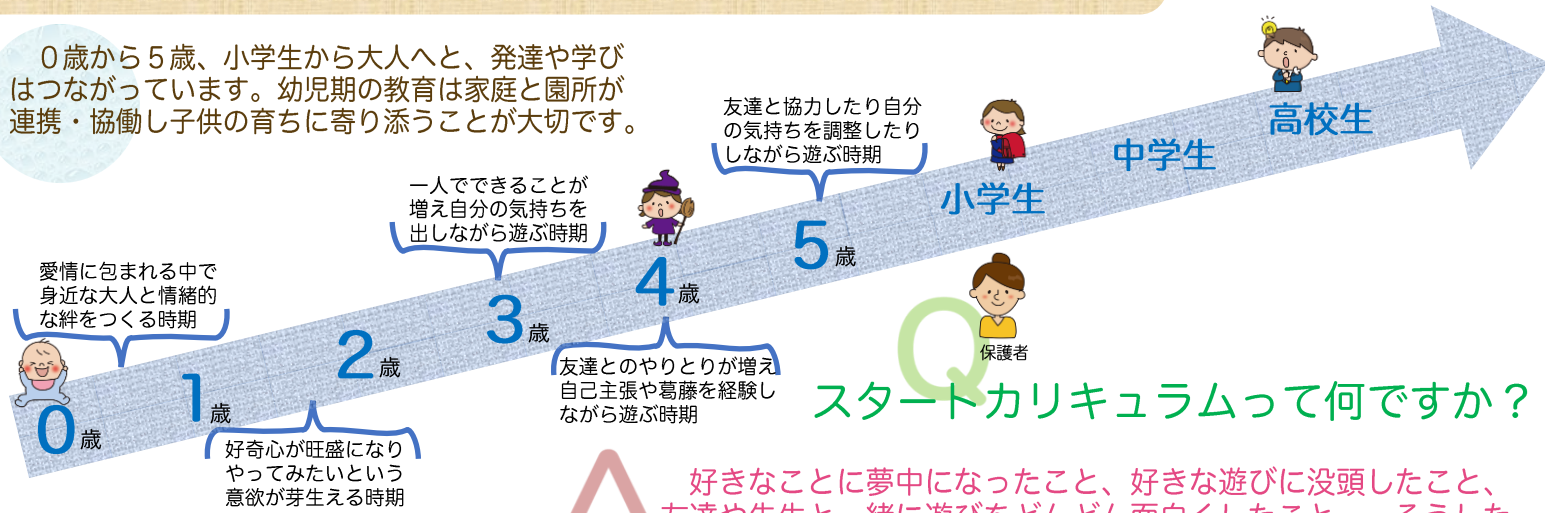


* 幼保小の
架け橋プログラム



幼児期における遊びの重要性は、一般的にはまだまだ認識が薄い現状があります。質の高い幼児教育とは、いわゆる早期教育や小学校教育の前倒し学習であるという誤解もあるようです。こうした背景をふまえて、国は「幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会」を発足し、幼児教育の質的向上及び、小学校以降の教育への接続の推進に向けて、審議等を進めています。

0歳から5歳、小学生から大人へと、発達や学びはつながっています。幼児期の教育は家庭と園所が連携・協働し子供の育ちに寄り添うことが大切です。



スタートカリキュラムって何ですか？

好きなことに夢中になったこと、好きな遊びに没頭したこと、友達や先生と一緒に遊びをどんどん面白くしたこと…。そうした自発的な遊びや生活を通して育まれた資質・能力（好奇心、想像力、粘り強さ等）を、小学校でも発揮しながら生活をスタートできるようにしていくためのカリキュラムです。

1年生が学習する教科等

国語、算数、生活
音楽、図画工作、体育
道徳、特別活動

子供たちみんなが安心して自己発揮できるように
～スタートカリキュラム～

* スタートカリキュラムへの取組内容は各学校により異なります

なかよしタイム 【一人一人が安心感をもち新しい人間関係を築いていく時間】



「好きな動物はうさぎだよ」
「私はケーキが好きだよ」
カード交換ゲームをして
仲良くなったよ。



教室にある材料で輪投げを
つくって一緒に遊んだよ。
私は3つ成功して、友達は
5つ成功したよ。

登校～
朝の時間

わくわくタイム

【生活科を中心とした学習の時間】



学校のお庭できれいなお花を見つけましたよ。
誰が育てているのかなあ。あつ、チョウが
ストローで蜜を吸っているぞ。ストローは
本当に伸びるんだ！



ここは何のお部屋だろう。触っていい
のかなあ。本物かなあ。〇〇先生に、
もう一度会いに行ってみようよ。

1校時～
4校時

ぐんぐんタイム

【教科等を中心とした学習の時間】



幼稚園でも遊んだことあるね。
いろいろな箱があるなあ。ねえ、
もっともっと高くしようよ。（算数）

せーの「小槌をふりふり
すっとなん」ぼくがおじ
いさん役ね。新聞紙でおむすびを
作って転がしながら音読しようよ。
（国語）



1校時～
4校時



教科等の学習を通して学ぶ時期

↑↑ 高校

中学校

小学校

学びに向かう力、人間性等

知識及び技能

思考力、判断力、表現力等

架け橋期

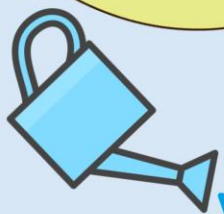
生涯にわたる学びや生活の基盤をつくる重要な時期として、5歳児から小学校1年生の2年間で、「架け橋期」と呼んでいます。
(文科省「幼保小架け橋プログラム」より)

思考力、判断力、表現力等の基礎
学びに向かう力、人間性等
知識及び技能の基礎

幼稚園

保育園

認定こども園



3～5歳児

適切な環境

共感

肯定的理解

1～2歳児

身近な人と気持ちが通じ合う

身近なものに関わり感性が育つ

健やかに伸び伸びと育つ

遊びを通して学ぶという幼児期の特性を踏まえた教育が、その後の教育の基礎を培っているということを、園所、小学校、家庭、地域、行政等で共有していくことが重要です。

(文科省「幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会審議経過報告」参照)

乳児

人間関係

健康

環境

言葉

表現